あつまれ みんなの力作

南条小学校

4年
伊東拓也君

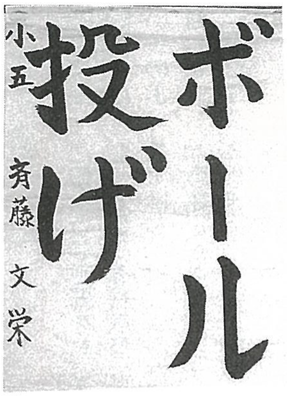
『火事を防ごう』

※これを見て、みんながストーブの火に気をつけてくれたらいいなと思います。

1年
布施篤未さん

『森の中のうさぎ』

※うさぎのかおをつくるのが、一ばんむずかしかったです。



5年
齋藤文栄さん

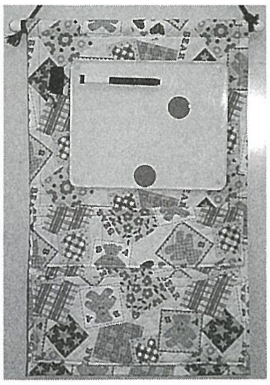
※行の中心がずれないように気をつけて、力いっぱい書きました。

『ぼうけんしゃ』

2年
山崎大輔君

※紙ねん土で作った顔の、口をぬるのがむずかしかったです。

6年
齋藤真紀さん



『ウォールポケット』

※ミシンでぬう所を手ぬいでぬったのがよくできたし、ポケットの位置もよくできた。

3年
越川敦史君

『コリントゲーム』

※ビー玉が入るように、くぎを打つのがたいへんでした。中に魚の絵をかきました。

ひかり俳壇

喪の庭の人吹き寄せる春疾風　越川せつ子（篠本）

砂塵を避けて物陰へ身を寄せる会葬者たち、春疾風の凄じさが如実に伝わってくる。

春疾風畑の人影見失う　伊藤定男（尾垂）

春嵐であり、春一番とは区別される季語。吹き荒るる畠の情景を巧まずに捉えた。

芹引けば土の底より水谺　川島重一（尾垂）

春の七草の一つで摘草で親しまれている。座五の措辞は芹の生命の悲鳴でもある。

春疾風防砂堤なす海の家　山崎てい（二又）

あおんと鳴く情熱激しき恋の猫　鈴木とし子（宝米）

臥竜梅その名ゆかしき古木かな　椎名静子（二又）

つんときて目と目で笑うおでんの夜　伊藤幸枝（尾垂）

評者吟

焼香に呼ばれて立つや春疾風

短評　椎名しげる